

第2次世界大戦 (中学校・歴史)

()中学校()年()組
氏名()

【問1】小見出しの四角い空欄 に当てはまる語句を3文字で答えましょう。

(無差別)

【問2】次の空襲はいつのできごとですか。年月日を答えましょう。

- ① 鹿児島市の初空襲 (1945) 年 (3) 月 (18) 日
② 鹿児島大空襲 (1945) 年 (6) 月 (17) 日

【問3】米軍が使用した燃烧力の高い焼夷弾について、開発の様子がわかる1文を記事中から抜き出しましょう。

(実物大の日本家屋を再現して効果を検証する実験を繰り返したとされる)

【問4】鹿児島に米軍による空襲が多かった理由としてあてはまらないものを次のア～エから一つ選びましょう。 (イ)

- ア 特攻隊の基地が多かったから
イ 製鉄所や造船所など軍事関連工場が密集していたから
ウ 沖縄戦以降、次の上陸作戦に位置づけられていたから
エ 九州全土へ空襲する際の通過地点だったから

【問5】日本政府が空襲被害にあった民間人への補償をせず、救済を目指していた超党派による国会議員連盟も法案の提出見送りを決めました。戦後80年の節目に、空襲被害者たちはどのような思いを語っていますか。記事中のから13文字で抜き出しましょう。 (死ぬのを待たれているようだ)

【調べてみよう】 戦後80年の今、自分たちの地域の戦時中の様子について、歴史資料館や戦争遺跡を尋ねて調べてみよう。



風化させず繰り返さず

鹿児島市街地を火の海に包み、2316人が犠牲になった鹿児島大空襲から80年を迎える。焼夷弾約810トンが住宅密集地にばらまかれ、子どもや女性ら非戦闘員が巻き込まれた。非人道的な「無差別爆撃」は今なおウクライナやパレスチナ自治区ガザなどで続く。身近に起きた惨禍の記憶を風化させてはならない。歴史に学び、一度と繰り返さない誓いを新たにしたい。

精密から へ

鹿児島大空襲

戦後80年



鹿児島大空襲で焼け野原になった鹿児島市街地。中央の高層建築物が山形屋
＝1945年11月（平岡正三郎さん撮影）

太平洋戦争時の米軍の空襲は1944（昭和19）年秋以降に本格化する。当初は軍事施設だけを狙った「精密爆撃」が中心だった。鹿児島市を最初に襲った45年3月18日の空襲は精密爆撃だった。

た。6人の死者、59人の負傷者が出たものの被害は都元町当の海軍航空隊関係に限定されていた。

報は翌日の一面コラムで、怖いもの、珍しいもの見たさに空襲を見物した人が少なくなかったと指摘。「ボツケ過ぎること

にあたり大死ををしたり怪我でもしたら全く申し訳ないことで固く恨まねばなるまい」と注意を呼びかけたほどだった。だが米軍は45年3月の東京大空襲以降、夜間に低高度から住宅密集地に焼夷弾をばらまく「無差別爆撃」へと移っていく。投下する武器も爆弾から焼夷弾に変わる。精密爆撃は精度が低かったからとの見方もある。焼夷弾は、燃焼力が高く消火しにくく工夫が施されていた。実物大の日本家屋を再現して効果を検証する実験を繰り返したとされる。市民を巻き込むことをいとわない戦い方である。鹿児島大空襲は梅雨の晴れ間となった45年6月17日の深夜に始まった。午後11時過ぎ、市民は大きな雷音のようなザッという音を聞く。グアムから来た117機の米爆撃機B29が投下した無数の焼夷弾の音だ。約1時間4分に及ぶ空襲で、あちこちから火の手が上がる。

被災補償いまだに

易居町にあった鹿児島日報の社屋も炎上した。荒田方面に火の手が上がって、やがて攻撃は上町方面へのびて形屋、西本願寺別院が火に包まれるのどほとんど同じころ、日報の建物も焼夷弾の雨に見舞われアツという間もなかった。社史はその破壊力を書き残している。鹿児島は沖縄戦以降、米軍の次の上陸作戦に位置づけられた。特攻基地が多い九州全域への空襲のための通過地点でもあった。敵の機影を告げたいはほとんどなかったという。「鹿児島県史」は空襲による県全体の死者3746人、負傷者3146人、住家全焼7万7049棟、全壊244棟、半壊2317棟と記す。被害のなだらな町はわすれられた。最も悲惨だったのが鹿児島大空襲だ。大都市中心の焼夷弾空襲が地方都市に拡大する契機とされた。日本中を徹底的にたたき戦意をくじく考えだつたのだらう。日本政府は旧軍人・軍属や遺族に恩給など総額約60兆円を支払ってきた。しかし、いまだに民間人の空襲被害は放置されたままだ。戦争という非常事態で生じた被害は国民が等しく我慢すべきだとの「受忍論」や、「戦後補償問題は解決済み」といった言い分もあるが、国が始めた戦争の責任は政府が取るのが筋ではないか。救済法成立を目指す超党派の国会議員連盟は今年12日、国会への法案提出見送りを決めた。法案は空襲や沖縄戦で身体や精神に障害が残った人への50万円支給が柱。被害実態調査も盛り込んでいた。自民党内がまとまらず、戦後80年となる8月までの成立を断念した。「死ぬのを待たれているようだ」と語る空襲被害者たちの言葉は重い。

むずかしい漢字とことば

非戦闘員＝戦闘に関与しない一切の人。特に文民、一般市民。	戦意（せん・い）＝戦おうとする意気込み。
非人道的＝人道的でないさま。人としての同義にそむき残酷なさま。	軍属（ぐん・ぞく）＝軍人でなくて軍に所属する文官・文官待遇者など。
惨禍（さん・か）＝いたわしいわざわい。	恩給（おん・きゅう）＝一定年限勤めた後、退職した旧軍人・軍属またはその遺族に国庫、または国指定する団体が給付する一時金や年金。
犬死に＝何の役にも立たない死に方。むだ死に。	
いとわない＝いやがらない。さけない。	受忍（じゅ・にん）＝我慢すること。
被災補償（ひ・さい・ほ・しょう）	救済（きゅう・さい）＝救うこと、たすけること。
機影（き・えい）＝飛行機の姿、またはその影。	超党派（ちょう・とう・は）＝党派の利害を超えて一致団結すること。
契機（けい・き）＝きっかけ、原因。	・ボッケ＝鹿児島弁で大胆、豪快という意味。